

アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

事業課題名	次世代グローバルワークショップ
代表者名	安里和晃
事業概要 (600 字程度)	次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008 年から年に 1 度開催し、2013 年からその活動を KUASU が引き継いでいる。今回は 16 回目の開催となり、京都大学主催で実施される
成果の概要 (800 字程度)	アジア研究教育ユニットでは、第 16 回次世代グローバルワークショップを、2022 年 9 月 29 日（金）～9 月 30 日（土）に開催した。 16 回目となる今回のワークショップは、「International Conference on Migration and Quality of Life: Harnessing the Potential for Social Prosperity」をテーマに掲げ、2019 年度以来の対面での開催となった。 世界中の大学院生・若手研究者から約 80 件の応募申請があり、その中から、インド、フィリピン、シンガポール、ドイツ、アメリカ、日本などの 8 カ国の若手研究者 26 名を選出しました。ワークショップでは、2 日間で 8 つのセッションに分かれ、報告を行った。発表テーマは多岐にわたり、移民と戦争、労働、結婚、法制度、宗教、エスニシティ、アイデンティティなど、多様な領域で議論が展開された。また、14 名の大学教員がアドバイザーとして参加し、若手研究者の論文と発表にコメントを行った。 最終日の Wrap Up Session では、「自分のトピックだけでなく、他人の研究にも関心を持つようになり、海を跨いだ学術の協力関係を構築できた」等、多くの参加者から感想が寄せられた。